

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年3月2日

事業所名 ニョースハウス 62

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			環境を整備している
	2	職員の配置数は適切である	○			十分な配置を行っている
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		角の所にはクッションガード	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		月1回会議で目標を立てる	支援経過報告(個別支援計画)モニタリング、サポ報告などに参加
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			年1~2回参加して意見を伺っている
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者評価等行っていない
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		聞き取りには時間をはかっている	当方の相談支援事業所を利用されている場合は特に連携している
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		直接保護者、学校など具体的にアセスメントを行いニーズを定めている
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		特別プログラムを活用	音楽教室、ペイトス教室、造形教室
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		〃	上記教室は各々プロの先生に指導していただき内容は種類ある。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		行事以外にクッキング	行事イベント的な催しもある
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		年間スケジュールを活用している	ペイトス学習は個々り。それ以外は集団で行う。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼屋礼を行っている。	その日のスケジュールレシートやサポ報告で確認
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	終礼を行っている	振り返りは翌日の午前中。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援経過報告は毎月	当方の相談支援事業所とも連携して適宜記録を作成している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		相談支援との連携あり	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	特にキープイン的職員	児発管 児童指導員の中でもキープイン的な職員
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	学校等との連絡等行われている。	地域の学校の利用者が多いので担任、副担任などと密に連携をとっている
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		卒園してしまうとそれまでの連携はとりにくい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○	当方の相談支援事業所との連携あり。	系列法人の放デイでは現在も卒業と同時に情報共有をしている。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		年に1~2回3施設を合同でバス遠足。そこで交流。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	送迎時など意識している。	細かいことまで共通理解を求めている人が多い
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時に説明	契約時、その後も必要に応じて説明あり。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		当方の相談支援事業所でも連携している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		年1~2回の合同遠足の場では支援をしている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	緊急マニュアルを整備している。	対策委員会が必要に応じて構成され、そこで迅速に対処する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ニュースレター等を毎月発行している。
	35	個人情報に十分注意している	○	常に意識している	契約時それ以降も気を付けている
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている	○	地域の祭りなど参加	もちつきやバス遠足のとき。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		会議資料として使われている	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		消防言ひ練など	毎年3月、9月
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年間スケジュールを立てている	外部内職員の研修も放デイ合同で行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		身体拘束を行うことはいない。計画等にも入れていない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			事業所のメニューに明示している
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			月1回の営業会議で各部署の検査等を行い情報共有している。